



「麻酔科医」のお仕事

市立砺波総合病院 麻酔科

部長 橋本 晶子

内科や外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、…色々な科がありますが、麻酔科を受診される患者さんは、そう多くありません。

当院の麻酔科は、ペインクリニック※と手術麻酔を行っています。ここでは、手術麻酔についてお話します。

手術前診察

手術を受けることが決まったら麻酔科を受診します。麻酔科では、手術を受けるために必要な麻酔方法の説明があります。

麻酔方法は手術の内容によって変わります。また、患者さんの年齢・持病を考慮して、最も安全な方法を決定します。

麻酔方法の種類

麻酔方法には、大きく分けて「全身麻酔」と体の一部を麻酔する「局所麻酔」があります。局所麻酔には、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、末梢神経ブロックなどがあります。

全身麻酔 麻酔ガスや静脈麻酔薬を投与し続けることで、意識がなく、痛みがなく、動かない状態になります。呼吸は人工呼吸器で管理します。

硬膜外麻酔 手術後の痛みを和らげるために行います。脊髄の近くの硬膜外という場所に細くて柔らかい管（カテーテル）を挿入し、手術後、カテーテルを通じて持続的に局所麻酔薬や鎮痛薬を注入します。全身麻酔と併用し



全身麻酔で使用する薬剤や器具の一部

ます。

脊髄くも膜下麻酔

脊髄の近くに局所麻酔薬や鎮痛薬を注入します。いわゆる下半身麻酔です。帝王切開や足の骨折の手術などに行います。点滴から鎮静薬や鎮痛薬を追加することもあります。

末梢神経ブロック

特定の神経の周囲に局所麻酔薬を注入し、限られた範囲だけ痛みを遮断します。膝関節の手術に大腿神経ブロック、手首の骨折に腕神経叢ブロックなど、手術によって様々な神経ブロックがあります。

全身麻酔の実際

手術室に入ったら 麻酔中の体の状態をモニタ—する心電図や血圧計などをつけ、点滴をします。

麻酔が始まります 酸素マスクから酸素を、点滴から静脈麻酔薬を投与します。患者さんの意識がなくなつた後、口からのどに人工呼吸用の管を入れ、管を通して人工呼吸をします。

手術中から手術終了までの麻酔 麻酔ガスや静脈麻酔薬を投与し続けるので、手術中は意識がなく、痛みを感じません。

麻酔からの覚醒 手術が終了したら麻酔薬の投与をやめ、麻酔から覚醒させます。患者さんの呼吸や血圧が正常で、意識が回復しはじめたら、人工呼吸用の管を抜きます。その後も



麻酔器とモニター機器

体の状態を観察して、問題がなければ手術室を退出することになります。

手術中の患者さんを守ります

手術中の体は刻々と変化します。血圧や脈拍、体の酸素量、手術によって出血量が多いこともあります。麻酔科医は、薬剤や酸素、点滴や輸血など、様々な方法で患者さんの容態が良好に保たれるようにします。

麻酔科医の仕事は、手術中の患者さんの命を守り、痛みをとることです。安心して手術室にいらしてください。

※ペインクリニックとは…病気に伴う痛みを緩和する治療のこと



麻酔開始時の様子

肝臓デーイベント2019 大切な肝臓を守ろう

日時
8月22日(木)・23日(金)
10時30分～12時30分

場所
市立砺波総合病院正面玄関ロビー及び
第1会議室

内容
医師との相談、握力測定、栄養相談、
薬剤師によるお薬の相談。鍼灸師による
ツボの話、ポスター展示など

※申込み不要、参加無料、どなたでも
参加できます。

問合せ 市立砺波総合病院肝疾患
相談センター☎ 32-3320

